

2021年1月19日 全5頁

新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（1/19号）

個社データ・業界統計・POSデータで足元の消費動向を先取り

経済調査部 エコノミスト 山口 茜
研究員 和田 恵

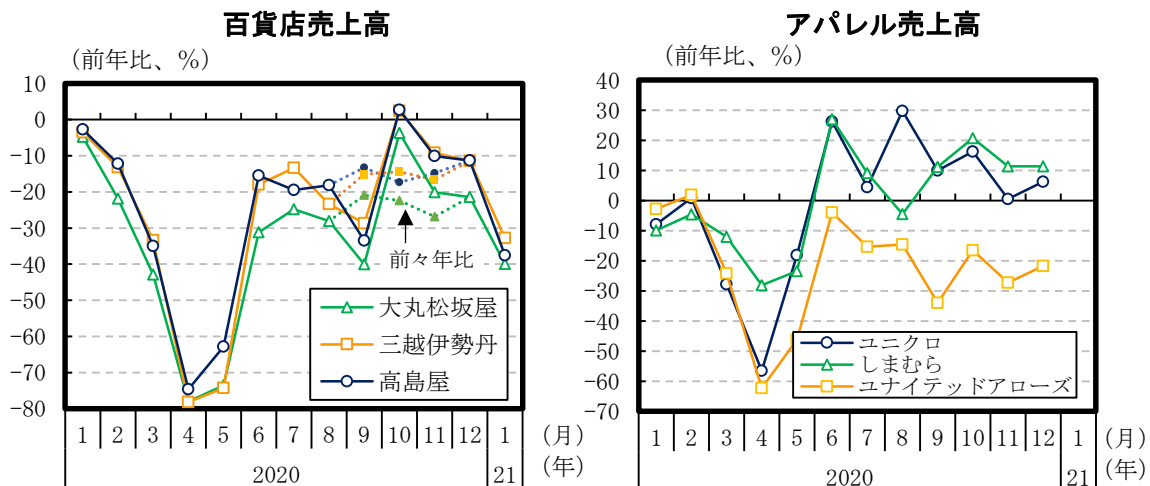
[要約]

- 1月前半の消費は、新型コロナウイルス感染拡大と緊急事態宣言の再発出を受け、12月から減少したとみられる。財消費は巣ごもり需要が追い風となり堅調に推移した。他方、サービス消費は飲食店の時短営業や不要不急の外出自粛などにより大幅に減少したと見込まれる。
- 【小売関連】1月前半の大手家電量販店の売上高は12月平均比+13%程度、ホームセンターは同+9%程度、スーパーは同+5%程度と増加した。感染拡大や緊急事態宣言の再発出を受けて、食品やパソコンなどの巣ごもり需要が高まっている。一方、大手百貨店の売上高伸び率は前年比3~4割減程度と前月からマイナス幅が拡大した。客数の減少に加え、初売りセールルの分散開催等が押し下げた。
- 【サービス関連】1月前半の新幹線輸送量は、前年比7割減程度と12月からマイナス幅が拡大した。外食・旅行・娯楽関連消費と連動している小売店・娯楽施設の人出は、緊急事態宣言の対象地域だけでなく、それ以外の地域でも大きく落ち込んでいる。今後公表される1月の宿泊者数、外食売上、旅客機輸送量でも前年比マイナス幅の拡大が見込まれる。

<小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の1月前半の既存店売上高伸び率は前年比3~4割減程度と、12月平均（同1~2割減程度）からマイナス幅が拡大。緊急事態宣言再発出を受けた客数の減少や初売りセール分散開催などが押し下げ。
- ◆【アパレル】12月の既存店売上高伸び率は、ユニクロが前年比1割増程度とプラス幅が拡大。しまむらが横ばい。ユナイテッドアローズは同2割減程度とマイナス幅が縮小。平年より気温が低かったことで冬物商品の販売が好調。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。1月は14日まで。

色付きのマーカーは前々年比（一部は大和総研による試算値）。

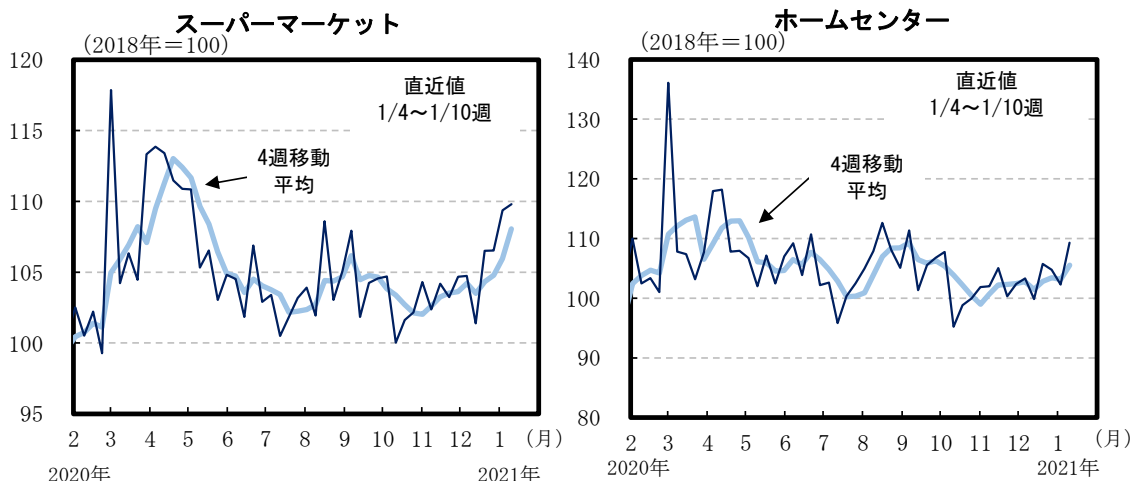
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユナイテッドアローズはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値、10月以降はオンラインストア含む。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】1月前半の売上高は12月平均比+5%程度。（大和総研による季節調整値）。主力の食品売上高も同+5%程度。
- ◆【ホームセンター】1月前半の売上高は12月平均比+9%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨、食品などの幅広い品目で売上が増加。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

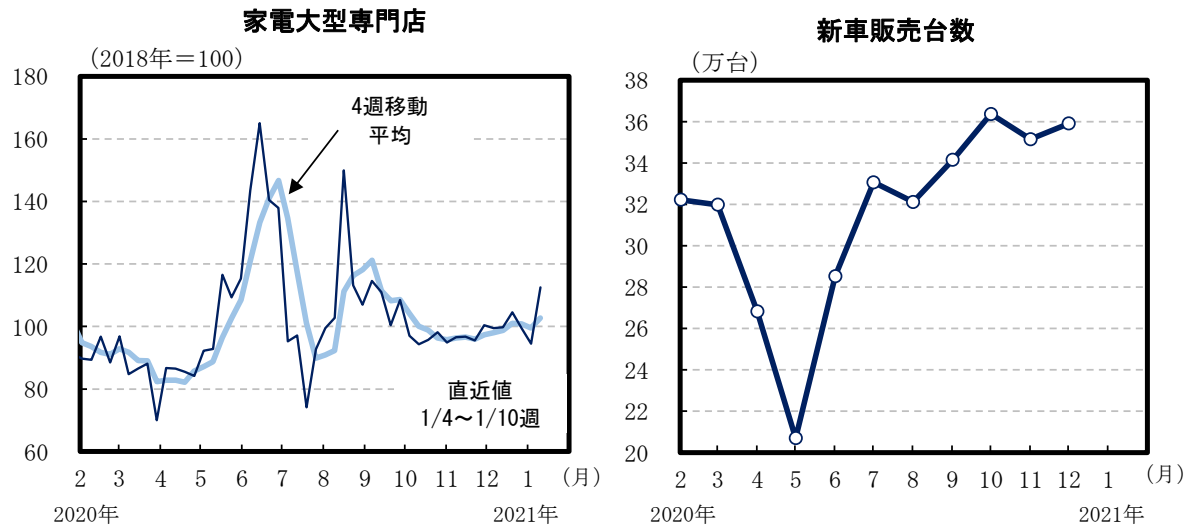


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】1月前半の大手家電量販店の売上高は12月平均比+13%程度（大和総研による季節調整値）。パソコンや洗濯機の販売が増加した。
- ◆【自動車】12月の新車販売台数は11月から8千台増加（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

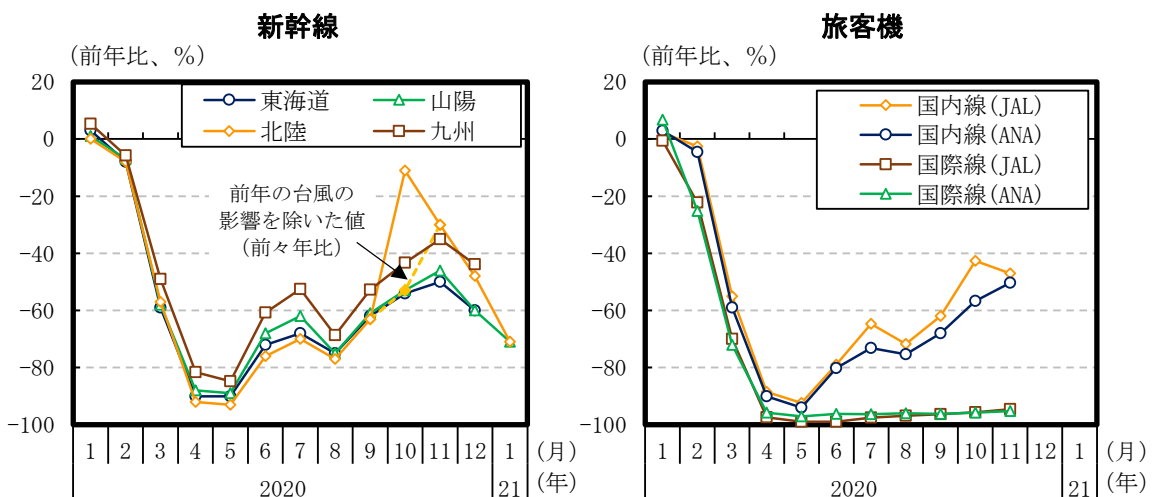
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

<サービス関連>

- ◆【新幹線】1月前半の輸送量は、前年比7割減程度と12月平均（同4~6割減程度）からマイナス幅が拡大。
- ◆【旅客機】11月の輸送量は、国内線は前年比5割減程度、国際線は同95%減程度と、ともにマイナス幅は10月から変化なし。年末年始（12月25日~1月3日）の輸送量は、国内線で同6割減程度、国際線で同95%減程度。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況



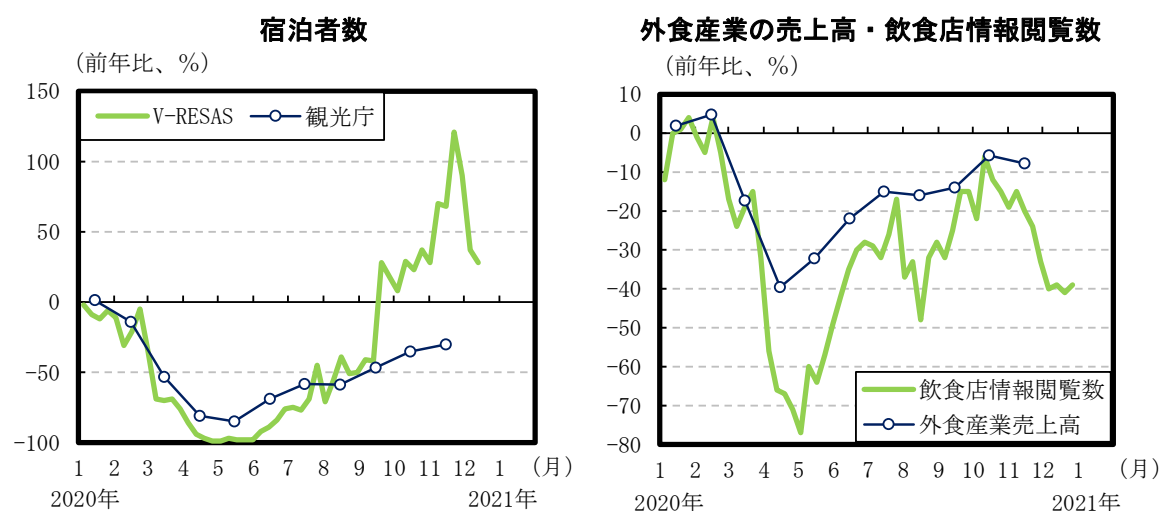
(注1) 新幹線の2020年12月の東海道は22日まで。2021年1月の山陽・北陸は14日まで。

(注2) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】11月の宿泊者数（宿泊日数ベース）は前年比3割減程度とマイナス幅が小幅に縮小。12月は新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化し、Go Toトラベルキャンペーンが一時停止されたことが重石となったと推測。1月は感染拡大が一層深刻化していることに加え、緊急事態宣言が再発出されたことでマイナス幅が更に拡大すると予想。
- ◆【外食】11月上売伸び率は前年比8%減程度と10月からマイナス幅が拡大。10月まで回復傾向が続いていたものの、営業時間短縮要請により小幅な悪化に転じた。12月はGo To Eatキャンペーンの制限や一時停止のほか、営業時間短縮要請の継続や感染拡大による忘年会の自粛等が重石となり、マイナス幅の拡大を見込む。1月は緊急事態宣言再発出や自粛の影響により、マイナス幅が更に拡大すると予想。

図表5：国内宿泊者数／外食産業の売上高・客数



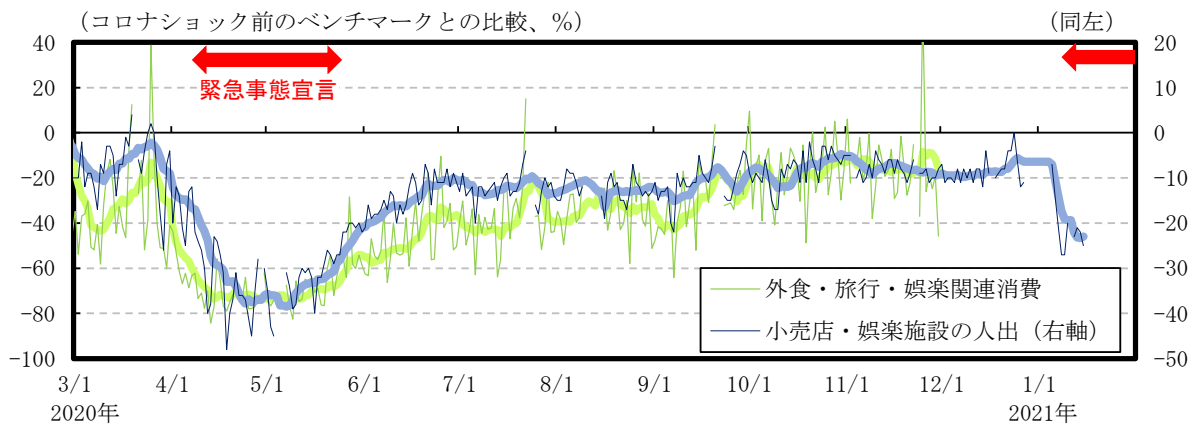
(注) V-RESASのデータは週次、それ以外は月次。

宿泊者数は、観光庁統計は宿泊日数ベース、V-RESASは宿泊開始日ベース。

(出所) 観光庁、一般社団法人日本フードサービス協会統計、V-RESASより大和総研作成

<参考：人出・高速道路交通量>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出と外食・旅行・娯楽関連消費

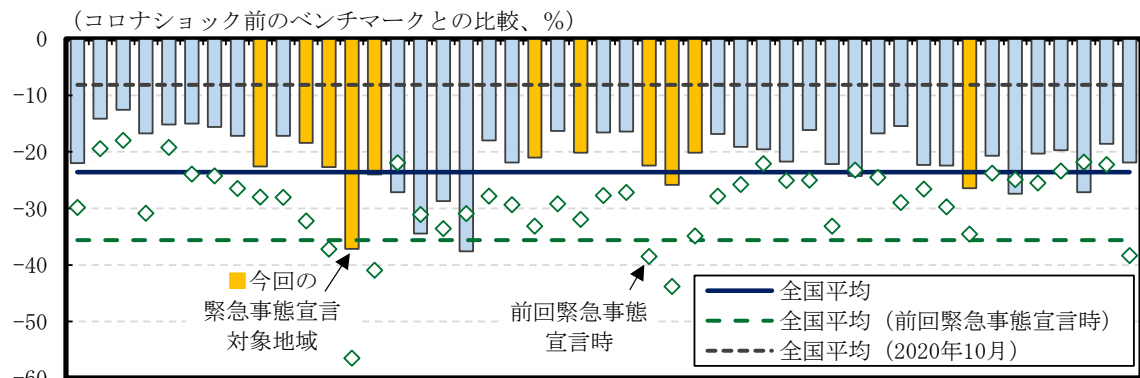


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

月～金曜日の祝日とお盆(8/10～14)、年末年始(12/28～1/4)のデータは除いている。

(出所) 総務省統計、Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出(1/8～15平均(1/11除く)、都道府県別)

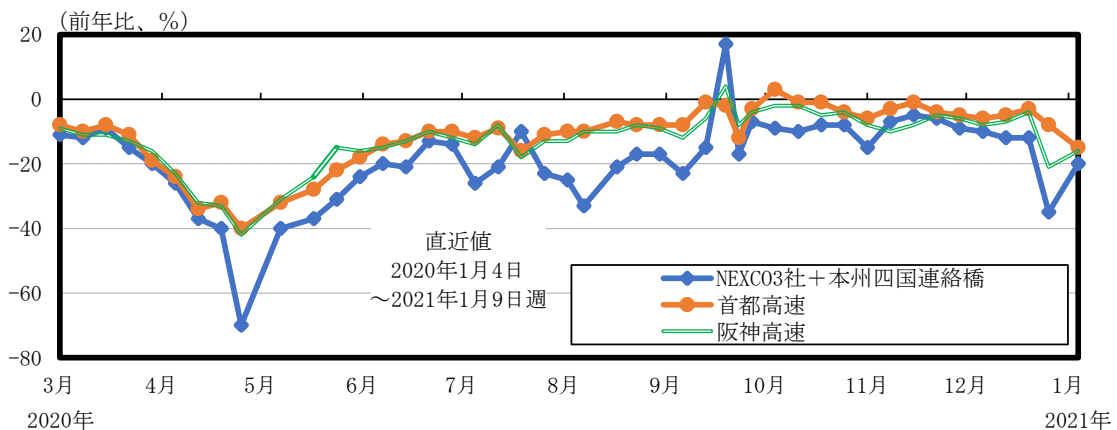


北青岩宮秋山福茨栃群埼玉千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖海森手城田形島城木馬玉葉京奈潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良歌取根山島口島川媛知岡賀崎本分崎児繩

(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。前回緊急事態宣言時は対象が全国の期間の平均。

(出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 7：高速道路交通量



(注) 週次データ。高速道路交通量のゴールデンウィークとお盆期間、シルバーウィーク、年末年始の前後の週は集計日数が異なる。

(出所) 国土交通省より大和総研作成